

「女性医師支援事業に関する調査」 報告書

目次

1. 調査の目的	………… 1
2. 調査の概要	………… 1
3. 集計結果	
I. 託児サービス併設費用の補助について	………… 2
II. 「医学生、研修医等をサポートするための会」について	………… 4
III. 「女性医師の勤務環境の整備に関する病院長・病院開設者等への講習会」について	………… 7
IV. その他	…… 10
ご意見・ご要望等	…… 14
調査票	調査票 1

1. 調査の目的

日本医師会女性医師支援センターでは、「女性医師バンク」の運営をはじめ、「医学生、研修医等をサポートするための会」の実施、各都道府県の女性医師相談窓口への支援、医師会が主催する講習会等への託児サービス併設の促進と補助等、様々なアプローチにより女性医師の活躍を支援してきました。しかしながら、「医学生、研修医等をサポートするための会」のように、事業として定着したものがあ一方、まだまだ各地に浸透していない事業もあるのが現状です。

そこで、今後、女性医師支援のための各施策を、より実効あるものとするため、当センターが実施している各事業の利用状況と各都道府県医師会における女性医師支援の現況を把握することを目的として、掲題調査を実施することとしました。

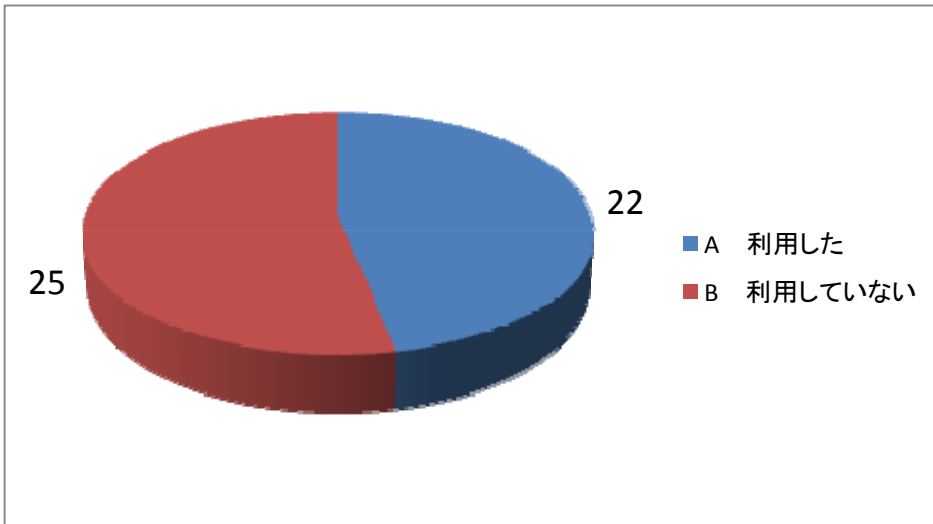
2. 調査の概要

- 調査依頼日：平成 25 年 6 月 26 日 回答期限：平成 25 年 7 月 19 日
- 各都道府県医師会に対し、調査票を送付し、回答を返送いただいた。
- 回収数 47 医師会（回収率 100%）

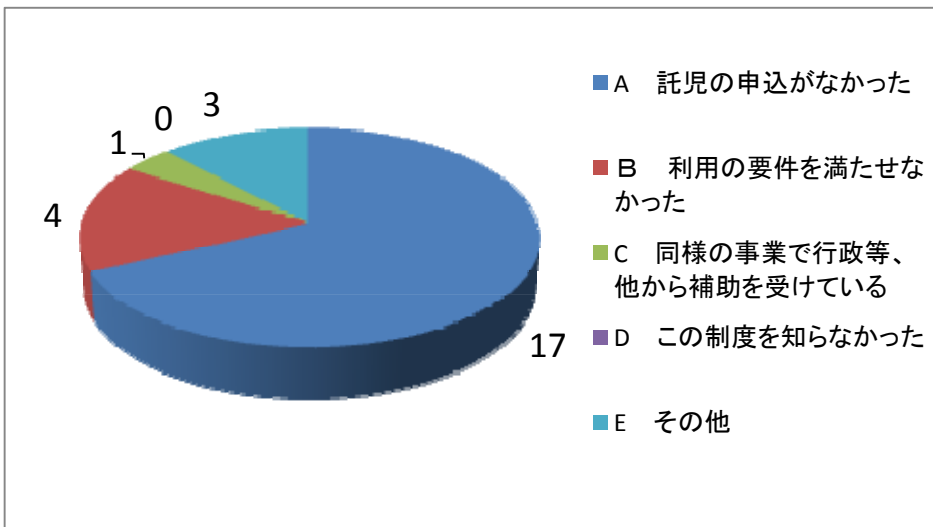
3. 集計結果

I. 託児サービス併設費用の補助について

問1. 日本医師会女性医師支援センター（以下、支援センター）が実施している、「医師会主催の講演会等への託児サービス併設費用の補助」について
昨年度（平成24年度）、貴会はこの補助を利用しましたか。



問2. 問1. で「B 利用していない」と回答された医師会にお尋ねします。（理由について）



「E その他」の内訳

- ・「医学生・研修医等をサポートするための会」補助金の中で利用。
- ・県の児童青年家庭課に臨時保育室開設を申し込みすると、無料で保育士の派遣があり、そちらを利用している。
- ・利用について案内はしたが、利用者がいなかったため。

問3. この制度について、ご意見、ご要望等ございましたらお聞かせください。

また、広く利用いただくために工夫したこと等がございましたら、ご記入ください。

(「A. □□□」は、女性医師支援センターからの回答)

◆ご意見・ご要望

(制度の継続について)

- ・補助制度の継続を望みます。
- ・継続を希望します。
- ・毎年申請される都市医師会があるので、今後も継続してほしい。

(費用について)

- ・補助を利用するほど託児費用はかからない。託児サービスを併設した研修会全体の補助をお願いしたい。
 - A. 本制度は、開催が予定されている講習会等に、育児中の医師が参加しやすくするための費用を負担するという国に説明し、了承を得ております。残念ながらそれ以外の費用を対象経費とすることは認められておりません。
- ・地区医師会まで利用を促進するには、金額が中途半端であり、呼びかけにくい側面があります。
 - A. 次年度以降の補助額について、今後、検討してまいります。
- ・費用補助についての日医への申請締め切り日が、3月初旬と早いため、広く活用するためには、申請の締め切り日を年度末か、次年度当初にしていきたい。(特に年度末に講演会を開催する機会が多い)
 - A. 本事業は、国の委託事業(単年度)であるため、当該年度(3月末まで)の事業に係る費用を翌年度(4月以降)に支払うことが認められておりません。また、余すことなく委託費を活用するためにも3月初旬には費消の見通しを立てておく必要がございます。早めの開催、申請にご協力をお願いいたします。

(補助の要件について)

- ・ごく小規模な研究会などでも利用できると良いと思います。
 - A. 規模の大小は問いません。

(その他)

- ・会場に託児に適した場所が確保できない心配があります。また、万が一の場合の傷害保険についても、今後考えなければならないと思います。
 - A. 傷害保険については、すでに利用されている医師会も多いようです。また、費用も対象経費となりますのでご申請ください。
- ・今後もより広く活用できればと思う。
- ・本会での平成24年度の利用実績は3件であった。本制度の周知とともに、医師会主催の講演会等には可能な限り託児サービスを併設するシステム作りが今後必要と思われる。託児サービスの利用は、女性医師に限られたことではなく、家族の責任の分担においても男女平等でなければならないと考える。
- ・要望があれば設置したいが、そのような問い合わせもない。
- ・県医師会主催の研修会では託児サービスがあることは周知されてきた。一方、都市医師会主催の研修会では託児サービスが設置されていない。
- ・講習会等でこの制度が利用できることを、さらに積極的に宣伝することが必要である。

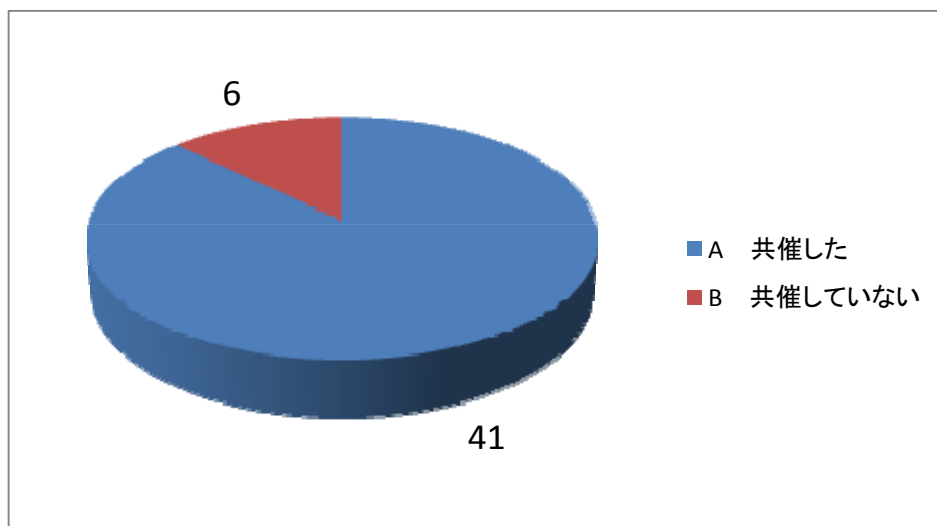
◆広く利用いただくための工夫等

- ・地域医師会へ文書で周知するとともに、地域医師会事務局連絡会議でも再度案内を行った。
- ・託児サービスがあることをもっと広報しなくてはいけないが難しく、利用者は少ない状況です。ママ友の口コミの方が有効かもしれません。
- ・年2回ニュースレターを発行し、「医師会主催の講演会などの託児サービス併設費用の補助」の費用請求方法などを分かりやすく掲載している。
- ・医師会主催や医師会員対象の会の場合、当県では高齢女医がほとんどで利用がまずない。それを見越してか、託児サービスを各医師会に広報しても開催のチラシにまず記載してくれていない。対象女性医師（勤務医師が主）が参加する、各部会主催の会がサービス利用可能か明確でなかったため、部会には広報が行き届いていなかった。非医師会員である勤務女医が利用することになるであろう部会に積極広報すれば利用率はアップすると思う。
- ・講演会開催案内文書等に「無料託児サービス」がある旨を、その都度記載し周知をしているが、利用者が少ない。平成24年度については、周知件数51件中、利用件数6件。また、ある講演会内において出席者を対象に「無料託児サービス」があることを知っているかなどのアンケート調査をした（アンケート調査という名目のもと、広報目的）。
- ・開催案内時に託児所併設の旨記載して案内した。また、週1回発行している県医のFAXニュースにおいても広報した。

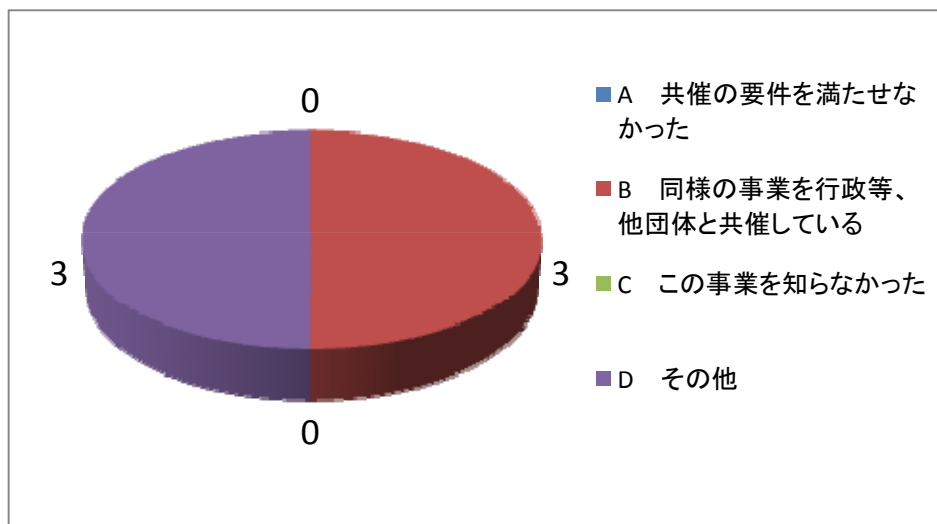
Ⅱ. 「医学生、研修医等をサポートするための会」について

問4. 支援センターが都道府県医師会等と共催で実施している、「医学生、研修医等をサポートするための会」について

昨年度（平成24年度）、貴会は本会と共催しましたか。



問5. 問4. で「B 共催していない」と回答された医師会にお尋ねします。(理由について)



「D その他」の内訳

- ・日程の都合がつかなかった。
- ・本年度以降の開催を計画していたため。
- ・医学生、研修医等が興味を示さない。

問6. この事業について、ご意見、ご要望等ございましたらお聞かせください。

(「A. □□□」は、女性医師支援センターからの回答)

◆ご意見・ご要望

(事業の継続について)

- ・継続して開催する方針です。
- ・本県においては、大学医師会が積極的に企画・立案しており、より医学生・研修医に近い立場より魅力的な会が毎年開催されている。
- ・継続を希望します。
- ・県医師会では、毎年日本医師会との共催により女性医師フォーラムを開催しており、今後も当制度を継続していただきたい。
- ・参加者に記入してもらっているアンケートを見ると、毎年好評な意見が多いので、これからも事業を続けてほしい。

(費用について)

- ・懇親会の費用も出していただけると助かります。(高額ではなく10～15万円程度)
 - A. 残念ながら委託事業の対象経費としては、原則、認められておりません。
- ・医学生や若手医師の参加を促進するための魅力的な会とするには、毎年の開催にあたり、約70～80万円の費用がかかるため、費用補助の金額を増やしていただくとありがたいです。
 - A. おかげさまをもちまして、本講習会を開始した平成18年度以降、年を重ねるごとに開催回数は増加し、平成24年度は延べ60回開催されております。今年度以降も開催数の増加が見込まれる現状においては、増額は困難かと考えますが、次年度以降の検討課題とさせていただきます。

(開催に関する工夫等)

- ・参加対象者を考え、初めて大学の教室をお借りしました。大学行事や、テスト、部活などいろいろな条件を考え、実施時期・曜日・時間を考える必要があると感じました。学生や研修医に授業や研修の一部として取り入れられる会になれば参加者は増えると思いますが、学生や研修医は多忙なので興味を持っていただけなかったり、興味があっても時間がとれないということが現状だと思います。高校生やその家族も対象に入れたところ、数組の参加があったので今後も継続予定です。
- ・医師会主催で開催しても出席者が少ないので、現在は大学との共催で実施している。また、6年生を対象にキャリア継続のための特別講義を実施している。
- ・大学医学部、大学病院、県内研修指定病院に案内を送っているが、参加者の3分の1は関係役員であり、本当に参加してほしい対象者の参加は少ない。医師会に加入しているのが院長や開設者、または診療科の科長のみが多く、それぞれの病院内連絡窓口を通じて案内をしても反応が悪い。勤務医師会・医学部・臨床研修センター・医師会間の連携・連絡などがすべてまとまる企画を調整できないものか？
- ・医学生・研修医・医師会員および医療関係者等を対象に、男女共同参画についての講演会を行っているが、毎年出席者が少なく、多くの出席者を得るにはどうしたらいいか悩んでいる。また、大学医学部の学生（平成23年度は4年生、平成24・25年度は1年生）を対象に、男女共同参画についての講義をしているが、学生たちは自分たちの将来について興味を持って聴講しており、有意義であると感じている。現在は1年生対象だが、さらに5年生時または6年生時にも継続して講義を行い、未来の医師たちへの力添えをしたいと考えている。
- ・県医主催の会のみでなく、大学や行政との共催の会でも利用している。参加者へ配付するチラシ、ノベルティーグッズは医師会員ではない学生や若い医師たちへの日医の女性医師支援についての広報、周知にもつながっている。

(その他)

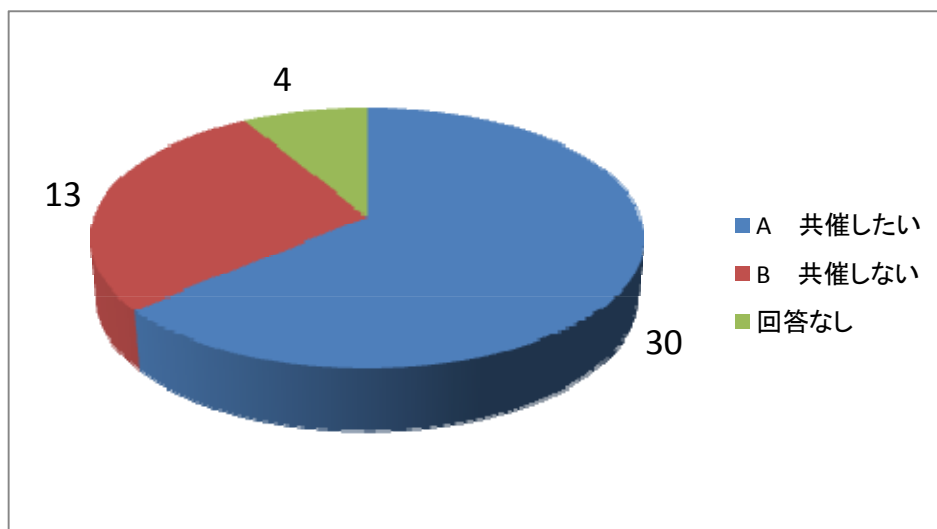
- ・対象を、医学生と研修医で分けた方が良いと思う。可能であれば、医学生は講義の中に取り入れ、研修医は、研修指定病院での実施が、効率が良く望ましい。
 - A. 対象を分け、同一年度内に複数回開催いただくことは問題ございません。ただし、その場合の費用補助の上限も、合計で30万円となります。
- ・医学生・研修医への効果的な情報伝達や集客に苦労している。他県の具体的な事業内容をお示しいただきたい。
 - A. 女性医師支援事業連絡協議会（年1回開催）や各地のブロック会議などを、是非、情報共有の機会としてご活用ください。
- ・学生への啓発ができるので良い企画だと思う。
- ・過去3年間に同様の会（女性医師フォーラムも含め）を5回開催したが、参加者が少なく苦労している。医学生・研修医のみを対象とした場合、「単位になる」や「管理職（上司）の積極的な勧め」などがないと、なかなか参加してくれない。大学の講義に組み込んでくれると効果的かと思う。そこで、当局者に他大学での例も説明させていただいたが、今のところそのような動きはない。
- ・「女子」という文字を除き、「医学生」としたことで男子医学生の参加が（少数ではあるが）あった。今後も男子医学生、研修医からの参加が多くなると思われる。支援内容、講演内容を今一度工夫して取り組まなければと考える。

- ・平成 22 年度から県医師会主催、県行政、女性医師の会、大学病院等の共催により、年 1 回開催している。平成 22 年度は 63 名の参加があり、主に女性を中心とした大学の医師、研修医、医学生であるが、学外からの参加もあり、年々参加者も増加している。参加した学生からは、「実際に女性医師としてキャリアを積んでこられた先生の話の間近で聞くことができ大変参考になった」「将来に対して不安があったが来てよかった」、反面、「男性が少なかった」などの意見もあり、性別を問わず、若い時期から男女共同参画やワークライフバランスについて理解しておくことが大切との観点から、貴重な研修の場であり、重要な事業であると認識している。
- ・医学生、研修医に医療現場の現状と本件の実情を理解していただく良い機会だと思う。また、地元に残っていただくお願いをする場としても良いと思う。
- ・若手女性医師・医学部を目指している女子高生には、医師であることの「責任と使命」を少しでも理解してもらえたらと思う。その責任と使命もまた、男女平等であるとも分かってほしいと願って、このような会を開催している。

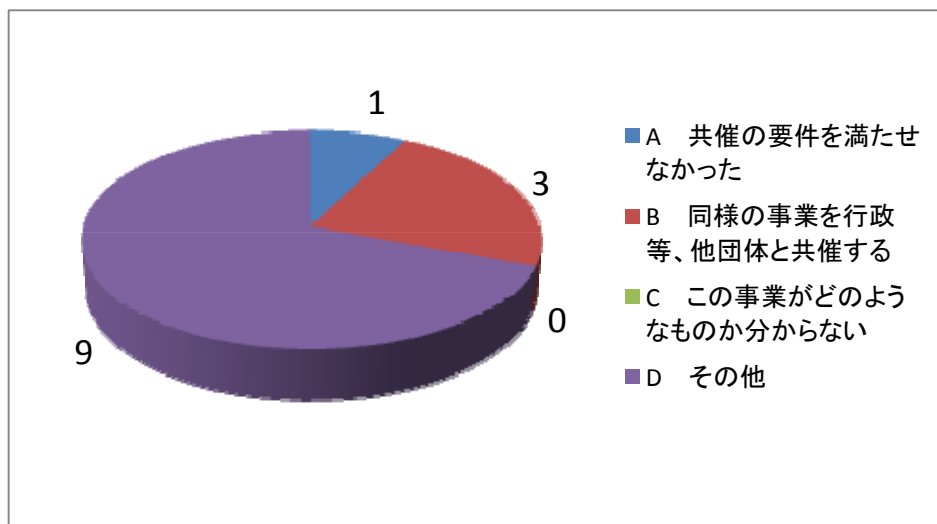
Ⅲ. 「女性医師の勤務環境の整備に関する病院長・病院開設者等への講習会」について

問 7. 「女性医師の勤務環境の整備に関する病院長・病院開設者等への講習会」について

今年度（平成 25 年度）の貴会のご意向をお答えください。



問8. 問7. で「B 共催しない」と回答された医師会にお尋ねします。(理由について)



「D その他」の内訳（記載があったもの）

- ・日程確保が困難である
- ・「医学生、研修医等をサポートするための会」の企画と重複するため
- ・検討中
- ・今後、県が設置する事業と連携して開催計画を検討する予定。
- ・平成 21 年度に開催
- ・本年度中の実施は困難なため。
- ・今年度は準備ができず、講習会の周知が困難なため
- ・「医学生・研修医等をサポートするための会」を開催予定です。

問9. この事業について、ご意見、ご要望等ございましたらお聞かせください。

(「A. □□□」は、女性医師支援センターからの回答)

◆ご意見・ご要望

(内容・講師等について)

- ・講習会等で使うレジュメなど、パワーポイント等でいただけると幸いです。
 - A. 本会男女共同参画委員会が作成しました、「女性医師の勤務環境の整備に関するスライド『女性医師がいきいきと仕事をつづけていくために』」が本会ホームページの女性医師のコーナーよりダウンロードできますので、ご活用ください。
- ・日本医師会との共催により実施するということであるが、日医の役員等を講師として招請依頼などできるのか、また、その場合の講師謝金はどのような取り扱いになるのかを教えていただきたい。
 - A. ご要望いただければ調整させていただきます。詳細につきましては、女性医師支援センターにお問い合わせください。
- ・今までに実施された他府県の事例、特に反響の大きかった講習会の情報をお示しいただきたい。
 - A. 本講習会は、平成 18 年度から平成 20 年度まで実施した後、一旦休止し、今年度より再開したため、最近の開催事例があまりございません。ある程度、事例の蓄積ができた段階で、情報のフィードバックについて検討してまいりたいと思います。

(その他)

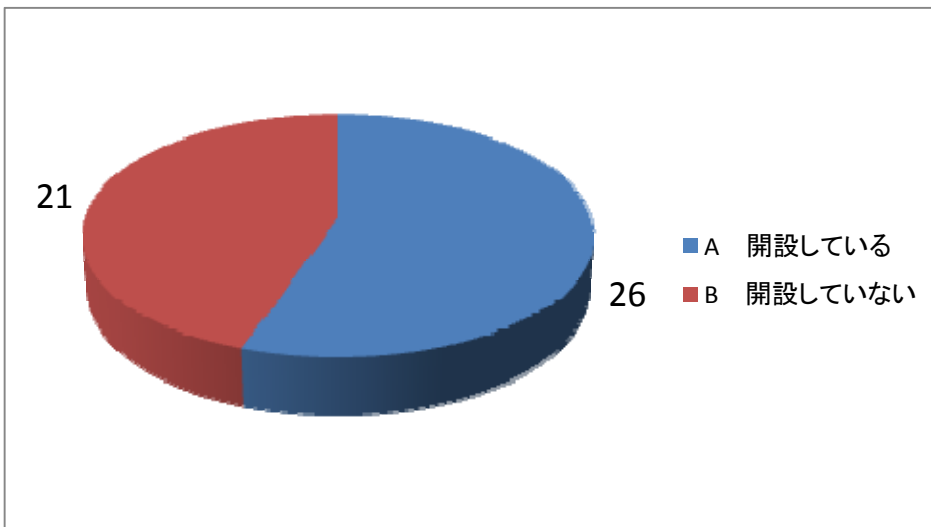
- ・本会では今年度、男女共同参画フォーラムを企画しており、就業環境の整備や男女共同参画事業の推進を行いたいと考えている。今後、実行委員会を立ち上げて、テーマ等を絞っていくが、共催の要件を満たせるようであれば、ぜひとも活用したい。
- ・大変良い事業だと思います。一番関心を持って実行してほしいのは病院長管理者でありますので、この事業は毎年進めてほしいと思います。
- ・お忙しい病院長に、いかにしてご参加いただくか、実際に働いている女性医師に対して理解を示して下さっている院長は参加して下さいますが、本当は参加していただけていない中小病院の院長先生方に、どうしたら参加していただけるかが課題です。今後は、県病院協会と連携を取りながら積極的に進めていきたい。
- ・病院管理者・開設者のみの会では、現場医師の意見が反映されないことが多い。むしろ、医学生・研修医をサポートするための会に管理者・開設者がオブザーバー等で参加いただく方が、生の現場の声を聞くには良いと思われれます。
- ・多忙な病院長等に対し、どこまでアピールできるか難しいと思う。
- ・「病院長への講習会」とは少し異なるが、本会ではすでに平成 23 年度から平成 24 年度にかけて、管内のすべてのブロックにおいて、基幹病院の院長・副院長による講演およびパネルディスカッションを中心としたシンポジウムを合計 14 回開催している。したがって、「病院長への講習会」という目的に限定される場合は、「共催」が難しいかもしれない（「病院側が望まないかもしれない」と考える）。
- ・これから各病院訪問を行い、病院長・病院開設者・勤務医・研修医との懇談を企画している。その席で女性医師の勤務環境の整備を話し合う方が良いと思う。各病院は個別に院内で工夫されているので、それを伺うのも参考になる。院内で積極的に勤務環境整備をされていない病院には啓発の必要もあると思っている。
- ・代理の事務長などでなく、病院長ご自身の参加が必要だと思う。ただ、重要なことではあるが、例えば妊娠女医や子育て中の女医の当直免除を厳密に求めると、当直体制が成り立たなくなる病院や科があるようである。現実的に対応可能なことを考慮することも必要かと思う。
- ・「勤務医＝職場環境に関するアンケート」を含め、「勤務医部会」との調整がつけば、早い段階で（報告を兼ねた）標記講演会が開催できればと考える。
- ・共催したいが、今年度は要件を満たす事業を計画していない。来年度以降に開催するよう、今後検討する。
- ・男女共同参画を進めるためには、管理職の意識改革が最も効果的な方法の 1 つだと思われる。今年度中にぜひ一度開催したい。
- ・病院長、病院開設者等が積極的に取り組む方向性、認識される講習会を開催したい。
- ・女性医師支援について取り組むためには、女性医師だけでなく病院長等の管理者の意識改革も重要であるので、この講習会の再開はありがたい。
- ・病院長・開設者等によく理解していただき、病院全体として医師が働きやすい環境作りに努めていただくための講習会であるので、ぜひ共催したい。

・本会では、女性医師部会を立ち上げた 2007 年より、毎年「女性医師の勤務環境整備に関する病院長等との懇談会」を開催しており、その時節に応じたテーマを掲げ、アンケート調査や事例報告などを行っている。毎年継続して開催することで医療施設側の意識も変わり、次第に施設者間のコミュニケーションも取れてきているように感じる。今回、当事業を再開されるとのことは嬉しい限りであり、ぜひ継続していただきたい。

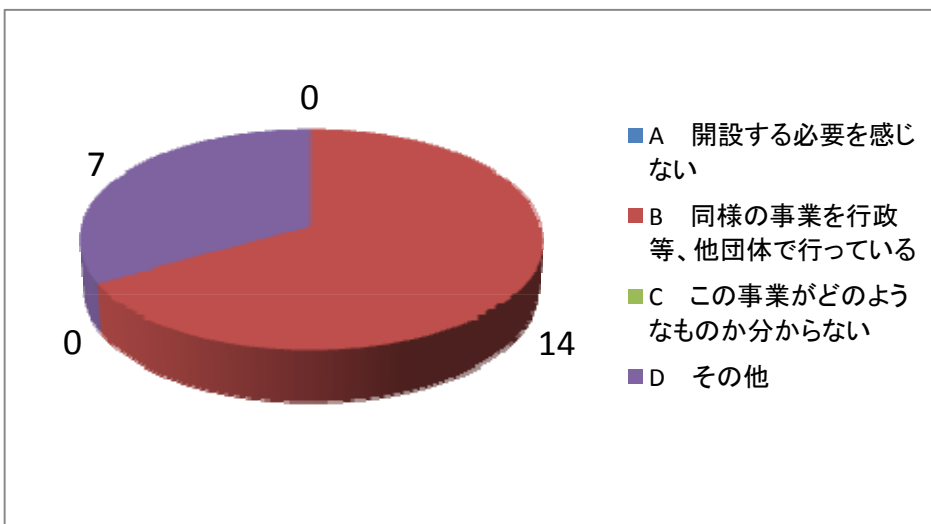
IV. その他

問 10. 女性医師等相談窓口について

貴会では女性医師等相談窓口を開設していますか。



問 11. 問 10. で「B 開設していない」と回答された医師会にお尋ねします。(理由について)



「D その他」の内訳

- ・大規模かつ広域な地域であるので、きめ細やかな対応は困難である。しかし、各大学内で女性医師支援等を強力にバックアップしている。
- ・専任相談員の確保が難しい。また、女性医師数が多いので、把握しきれない。

- ・開設の体制を取ることが難しい。
- ・育児支援に関する窓口のみ開設している。
- ・医師会と行政共同でサイトを作成中であり、その中で女性医師相談コーナーを設ける予定。
- ・相談に対応できるような人材がいない。
- ・マンパワー不足

問 12. この事業について、ご意見、ご要望等ございましたらお聞かせください。

(「A. □□□」は、女性医師支援センターからの回答)

◆ご意見・ご要望

(広報について)

- ・相談窓口事業は女性医師支援にとって必要な事業であるのだが、現状では周知のための広報活動などが十分に行えていないため、十分な支援ができていないと言いき難い。日本医師会から、物心両面から支援いただけたら、活動の幅を広げることができるものとする。
- A. 各都道府県医師会への一定水準の支援は、女性医師支援センターの予算でおこなうことは困難なため、「女性医師等就労支援事業」予算（厚生労働省）の設置、増額の働きかけを行ってきた経緯がございます。今後も、厚生労働省や各自治体に対し、相談窓口が十分に機能するために必要な予算措置が行われるよう働きかけてまいります。
- ・女性医師に相談窓口があることを広報する必要があるが、その広報手段をどうするのが一番の問題となっています。
- ・より広く広報したい。現在、数件の問い合わせのみ。
- ・まず、相談窓口があるということを知ってもらうことが重要である。現時点で相談することがない人でも、いざというときに相談窓口があることを思い出してもらえるよう広報をし、相談窓口は継続していくべきである。

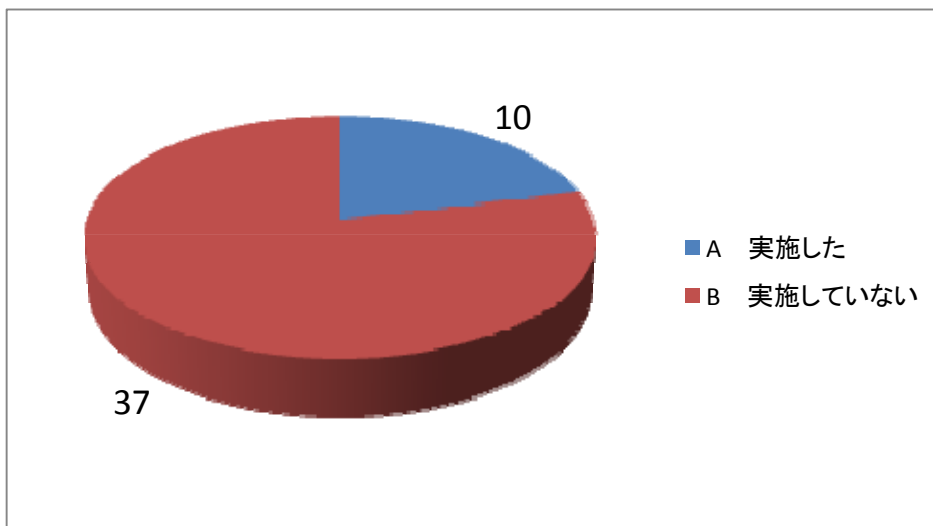
(その他)

- ・相談件数が少なく、別の対応が必要。参考事例を知るために、先進地域の発表が聞ける機会を設けていただきたい。
- A. 女性医師支援事業連絡協議会（年1回開催）や各地のブロック会議などを、是非、情報共有の機会としてご活用ください。
- ・電話やメールだけに限らず、病院訪問などを積極的に行い、就労等に関する意見の吸い上げを行っているが、実績（相談件数）が上がりやすく、委託元である県担当からの委託費の削減を余儀なくされている。相談件数の少なさと事業の有益性はイコールではないと説明しているが、窓口設置以外の有効な支援事業がないか、本会としても検討し、県側へ提案できればと考えている。
- ・ホームページでも対応可能にしておりますが、相談件数は多くありません。
- ・県医師会で設立した「保育サポーターバンク」は非常に有用であり、今後もこの事業を継続していきたい。
- ・本会では、女性医師に限らず、県内の勤務を希望する医師を対象に医師バンクを設置しています。本センターは、県の補助事業として、平成20年3月より運営していますが、一層の利用者拡大を目指し、「日本医師会女性医師支援センター」等と連携を密にしていきたいと考えます。

- ・医師会に窓口を開設しても利用者が少ない。当会では現在、メンターを中心とした相談活動を行っている。
- ・本事業での過去の利用は 0 である。事業主である行政とも相談したが、効果は出ていない。各病院での相談担当女性医師（メンター）と実務的な相談担当事務を決める方が効果的なのではないか？
- ・開設時に 1 件の問い合わせがあって以降、問い合わせはない。開設内容については育児に関する相談や、就労環境改善事業や病院内保育所事業の案内などだが、主体の県行政の医師確保推進課や幼保支援課が県事業（実質補助金の支出は県）として行っているの、直接県のほうに問い合わせしているのかもしれない。
- ・県のドクターバンク、大学附属病院の女性医師等支援センターと連携して事業を行っている。現在のところ、本会への相談はない

問 13. 「病院訪問（病院長や女性医師との懇談）」について

昨年度（平成 24 年度）、貴会において実施しましたか。



問 14. 問 13. で「A 実施した」と回答された医師会にお尋ねします。

実施した病院訪問について、会の名称、訪問先、対象者、参加者数等をご記入ください。

- ・[女性医師等就労支援事業周知のための臨床研修指定病院訪問] 計 4 回 38 名
- ・[(名称なし)] 計 3 回 39 名 (医師・研修医 33 名、職員 6 名)
- ・[女性医師支援セミナー] 計 2 回 32 名
- ・(平成 25 年度) [(名称なし)] 16 名
- ・[(名称なし)] 計 7 回 各回数名
- ・[(名称なし)] 計 4 回 48 名
- ・[ブロック女性医師支援 WG 会議] 計 7 回 129 名
- ・[女性医師との懇談会] 計 7 回 72 名
- ・[平成 24 年度 病院勤務医懇談会] 計 2 回 44 名

- ・[(名称なし)] *院内託児施設を持っている病院を訪問 計3回 参加者記載なし
- ・[医師会女性医師部会主催 プチフォーラム] 13名*平成22年から平成25年の間で計6回実施

問15. 貴医師会においてⅠ～Ⅲ、およびⅣの問10、問13以外に行っている女性医師支援の事業があれば、ご記入ください。

- ・「学生との座談会」(目的:医学生との意見交換を通じて、医師として働き続けることに対する意識や、そのために必要な環境整備などに関する意見を把握する。)
- ・子育て中の女性医師を対象に保育にあたる者の確保や紹介する「育児支援事業」と、育児等で離職した女性医師を対象に研修等で再就業を支援する「職場復帰研修事業」を行っている。
- ・郡市医師会を訪問し、県女性医師支援センターの活動を宣伝しています。
- ・大学の医師総合支援センターと事業連携し、「キャリア支援カフェ(仮称)」を開催予定。
- ・勤務医部会等で事業内容を検討予定。
- ・本会では、県内の女性医師に対し、女性医師問題に関するアンケート調査を平成19年、平成22年と2回実施した。その結果において、「病児保育」「託児所、保育園などの整備・拡充」などの必要性が挙げられ、女性医師が継続して勤務するには保育施設の充実が極めて重要であることが分かり、現在(平成25年7月)、県内の病院における院内保育・病児保育の実態を調査し、行政等に働きかける基礎資料とすることを目的に実施している。
- ・①求人情報のホームページへの掲載。②県内全病院への「女性医師の勤務体制等に関する調査」の実施等
- ・大学、国立系病院、市中病院より若手医師を医院として招聘し、次世代医師育成委員会を開催し、女性医師支援等の問題について鋭意検討を行っている。
- ・復職研修事業、各種調査等の実施
- ・女性医師ネットワーク事業(大学、県病院協会、県医師会)において、県女性医師交流会を開催している。
- ・①11地域にそれぞれ女性医師支援ワーキンググループ(WG)を設置し、WGごとに年3~4回の委員会を開催。②女性医師支援WG主催のシンポジウムの開催。③「イクメン医師を育てよう!!」シンポジウムの開催
- ・①県内の郡市区医師会を訪問している。女性医師、医師会会長などの役員男性医師や研修医も参加され、懇談会を開催している。多くのご意見をいただき、こちらの意見も伝える。いただいたご意見を委員会で検討し、解決の方法を考える。平成20年~本年9月で県域全部を訪問した。②ニュースレター年2回発行。女性医師の会の行事案内、女性医師支援相談窓口案内、県医ドクターバンクや日医女性医師バンクの情報も載せる。③ベビーシッターに支払った金額の25%を県医師会が補助する。勤務医は医師会加入が条件、研修医は医師会入会していなくても可能。現在、条件の最後の詰めをしている。
- ・大学の女性研究者支援センターとの共催により、平成24年12月6日、医学生110名を対象に「医師のキャリアデザインのためのワークショップ」を開催。先輩医師による講演やワークショップを通

して、理想とする医師像や、医師としての社会貢献について男子学生も交えてディスカッションを行い、男性医師の理解を得ながら女性が生涯にわたり医師として働き続けるためのきっかけづくりを行った。

- ・ 支援事業ではないが当県医師会すべての委員会委員で女性委員は今まで一人であった。今年度（平成25年6月15日～）、当会「男女共同参画委員会」において、女性医師5名に新たに委員に就任してもらうこととした。
- ・ ①行政（機構）との連携。②本会の勤務医部会との共催による講演会の実施。③大学医学系講座、診療科への女性医師支援体制のアンケート調査（2010年より毎年）
- ・ 県の医療再生機構（県内の医師のキャリア形成サポートや、全国からの医師の招聘などを行っている機関）が重要課題として取り組んでいるのが女性医師復職支援であり、県医師会は機構からの相談に応じ、サポートする体制がある。
- ・ ①県内の病院、診療所の男女共同参画担当者（病院長、事務職員含む）に対し講演を行い、懇談会を開催した。②保育に関する相談に対応できる相談員を年内に設置する予定。
- ・ 女性医師育児サポート事業を今年度より立ち上げる予定である。
- ・ ①女性医師メーリングリストの開設。②女性医師情報交換会の開催。③大学・県との定期的な検討会
- ・ ①ドクターバンク事業。②女性医師部会メーリングリストでの求人等の情報提供

ご意見・ご要望等

（「A. □□□」は、女性医師支援センターからの回答）

- ・ いつもお世話になり厚く御礼申し上げます。『ドクターゼ』は毎回読みやすく、楽しく拝読させていただき、とても勉強になります。経費のことあるとは思いますが、「もっと多くの医師に行き渡ると良いのに」と感じています。
 - A. 「ドクターゼ」は、医学生向けのフリーペーパーではございますが、医学生以外の方々からも好評をいただいているようです。現在、担当部署におきましては、まずは本来の対象読者である医学生に行き渡ることに注力しているところですが、ご連絡いただければお送りすることは可能です。医学生への周知につきましてもご協力いただければ幸いです。
- ・ 女性医師自身の意識改革にも、さらに力を入れていただきたい。
- ・ 女性医師支援事業について取り組むことは重要と認識している。今後、担当役員、事務担当者を定め、託児サービス、医学生・研修医等をサポートするための会、病院長・病院開設者等の講習会、女性医師相談窓口等について実施体制をとりたいと考えている。

女性医師支援事業に関する調査 調査票

医師会

I. 託児サービス併設費用の補助について

問1. 日本医師会女性医師支援センター（以下、支援センター）が実施している、「医師会主催の講演会等への託児サービス併設費用の補助」*について

昨年度（平成24年度）、貴会はこの補助を利用しましたか。

A、Bの何れかに○印をお付けください。

A 利用した → 問3. へお進みください

B 利用していない → 問2. へお進みください

*平成23年度までは、営利団体等との共催の場合は補助の対象外でしたが、平成24年度より、要件が緩和され、営利団体等との共催についても補助の対象となりました。

問2. 問1. で「B 利用していない」と回答された医師会にお尋ねします。

利用していない理由を、以下から選び○印をお付けください。

A 託児の申込がなかった

B 利用の要件を満たせなかった

C 同様の事業で行政等、他から補助を受けている

→ 差し支えなければ事業名をご記入ください。()

D この制度を知らなかった

E その他（具体的に：)

問3. この制度について、ご意見、ご要望等ございましたらお聞かせください。

また、広く利用いただくために工夫したこと等がございましたら、ご記入ください。

→ II. へお進みください。

Ⅱ. 「医学生、研修医等をサポートするための会」について

問4. 支援センターが都道府県医師会等と共催で実施している、「医学生、研修医等をサポートするための会」について

昨年度（平成24年度）、貴会は本会と共催しましたか。

A、Bの何れかに○印をお付けください。

A 共催した → 問6. へお進みください

B 共催していない → 問5. へお進みください

問5. 問4. で「B 共催していない」と回答された医師会にお尋ねします。

共催していない理由を、以下から選び○印をお付けください。

A 共催の要件を満たせなかった

B 同様の事業を行政等、他団体と共催している

C この事業を知らなかった

D その他（具体的に： _____）

問6. この事業について、ご意見、ご要望等ございましたらお聞かせください。

→ Ⅲ. へお進みください。

Ⅲ. 「女性医師の勤務環境の整備に関する病院長・病院開設者等への講習会」について

問7. 平成18年度～平成21年度、支援センターが都道府県医師会と共催で実施し、一旦休止となっておりました、「女性医師の勤務環境の整備に関する病院長・病院開設者等への講習会」を今年度より再開いたします。

「女性医師の勤務環境の整備に関する病院長・病院開設者等への講習会」について今年度（平成25年度）の貴会のご意向をお答えください。

A、Bの何れかに○印をお付けください。

A 共催したい → 問9. へお進みください

B 共催しない → 問8. へお進みください

問8. 問7. で「B 共催しない」と回答された医師会にお尋ねします。

共催しない理由を、以下から選び○印をお付けください。

A 共催の要件を満たせない

B 同様の事業を行政等、他団体と共催する

→ 差し支えなければ事業名をご記入ください。()

C この事業がどのようなものか分からない

D その他（具体的に：_____）

問9. この事業について、ご意見、ご要望等ございましたらお聞かせください。

→ IV. へお進みください。

IV. その他

問 10. 女性医師等相談窓口について

貴会では開設しておりますか。

A、Bの何れかに○印をお付けください。

A 開設している → 問 12. へお進みください

B 開設していない → 問 11. へお進みください

問 11. 問 10. で「B 開設していない」と回答された医師会にお尋ねします。

開設していない理由を、以下から選び○印をお付けください。

A 開設する必要を感じない

B 同様の事業を行政等、他団体で行っている

→ 差し支えなければ事業名をご記入ください。()

C この事業がどのようなものか分からない

D その他（具体的に： _____)

問 12. この事業について、ご意見、ご要望等ございましたらお聞かせください。

問 13. 女性医師の勤務継続の支援や、医療機関での勤務環境の改善を目的に、近年、いくつかの都道府県医師会において実施されている、「病院訪問（病院長や女性医師との懇談）」について

昨年度（平成 24 年度）、貴会において実施しましたか。

A、Bの何れかに○印をお付けください。

A 実施した → 問 14. へお進みください

B 実施していない → 問 15. へお進みください

問 14. 問 13. で「A 実施した」と回答された医師会にお尋ねします。

実施した病院訪問について、会の名称、訪問先、対象者、参加者数等をご記入ください。
(資料を添付いただいても結構です。)

例：第〇回 〇〇医師会病院訪問（於：〇〇病院）

〇月〇日（ ） 参加者：病院長、医師、職員 〇〇名

問 15. 貴医師会においてⅠ～Ⅲ、およびⅣの問 10、問 13 以外に行っている女性医師支援の事業があれば、ご記入ください。

ご協力ありがとうございました。以上でアンケートは終了です。

なお、本調査に関わらず、本会女性医師支援センターへのご意見ご要望等がございましたら、ご記入ください。